

# 「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会

2012年10月～12月活動報告

重田康博（代表、宇都宮大学国際学部教授・同附属多文化公共圏センター長）  
阪本公美子（副代表、同准教授・同センター員）

本研究部会は、10月に共同公開シンポジウムを開催し、12月に国際開発学会全国大会において、企画セッションを主催するとともに、共通論題シンポジウムにおいて研究部会の成果を報告した。

10月13日には、宇都宮大学にて福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト（FSP）との共同で、「栃木県北地域と『隠れた被災者』－市民による除染と子どもの安全のための活動を事例として－」公開シンポジウムを開催した。本シンポジウムでは、FSPが行ったアンケート及び栃木県北地域で除染活動及び子どもの防護活動に取り組む市民団体の報告を受け、本学会高橋基樹理事を迎えパネル・ディスカッションを行った。

本学会全国大会では、12月1日に本部会企画セッションにて、重田・阪本が、企画セッションの趣旨と乳幼児・妊産婦世帯や避難者の状況を明らかにした上、吉井美智子会員がベトナムの原発輸出をめぐる状況をベトナムの視点から報告した。真崎克彦会員による弱者の視点に立った個別修復的正義、中野佳裕会員によるポスト開発の技術論の報告を経て、上村雄彦会員が、市民による脱原発の道筋を提示した。これらの報告に対し、西川潤会員、喜多悦子会員から貴重なコメントを得た。また共通論題シンポジウム「東日本大震災と災害弱者：国際開発協力への教訓」にて、「原発震災における「隠された被災者」問題と国際開発協力への教訓」として部会の研究成果を報告した。

なお、上記報告を含む本研究部会の活動については、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターのホームページにおいて公表している。

<http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/fsp/proj3.html>